2024年10月27日（日）第二礼拝「感謝を捧げ主に栄光」詩篇50章23節

収穫感謝祭の聖書的根拠は仮庵の祭りです。これまで私たちの日本宣教は三十八年の恵みにあずかり、教会献堂から二十三年となりました。この全ての恵みに神様に感謝を捧げます。

第一番目、感謝は神様に栄光を返すことです。「あがめる」とは主に栄光を返すこと、主が喜ばれることです。神様が天地を造られ、六日目に「非常に良かった」と言われました。それはその日に人間が造られたからです。人間は神様の喜びであり、神様の栄光のために造られました。この神様の栄光のために私たちもダビデのように心から賛美を捧げるのです。「イエス様は最高の天の御座から、最も低い飼い葉桶でお生まれになり、ご自分を無にして十字架に従順され、私たちの罪を背負ってよみにまで下られ、三日目によみがえり、昇天されました。イエス様がここまでおできになったのは、全てに感謝を捧げたからです。イエス様が神様の栄光のために地上で成し遂げられた御業のゆえに、私たちはイエス様を永遠にほめたたえるのです。「…ほふられた小羊は、力と富と、知恵と、勢いと、誉れと、栄光と、賛美を受けるにふさわしいお方です。」(黙示録5：12)

第二番目、感謝を捧げる時、もっと良いものが増し加えられます。ヘブル書は「もっと良いもの」がタイトルです。御使いよりもまさるイエス様、モーセよりもっと良いお方、もっと優れた祭司、もっと良い約束などです。自分の力に頼り、不平不満を言うイスラエルの民に神様が与えたのは、シナイ山の古い契約であり、到底守ることのできないものでした。しかし、神様に感謝を捧げる時、旧約の契約よりももっと良い、新しい契約に移されます。パウロは律法を実行する力が自分にはないことを悟り、「私は、ほんとうにみじめな人間です。…私たちの主イエス・キリストのゆえに、ただ神に感謝します。(ローマ7：24～25)」と言いました。私たちが感謝を捧げるなら、肉によって無力になった私たちの代わりに、神様が私たちの内で律法を成し遂げてくださいます。いのちと御霊の原理が罪と死の原理から私たちを解放してくださいました。感謝する時、神様はもっと良いものを与えてくださるのです。

第三番目、厳しい状況下で感謝する時、プラス(＋)から掛け算(×)の祝福になります。「…すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。」(Ｉテサロニケ 5：16～18)私たちがこの荒野のような地上に送られている理由は、神様だけに頼り、全ての事を感謝する者になるためです。しかし、感謝ができないのは全てのことが当たり前になっているからです。実は普段の呼吸や睡眠、食事、排泄、歩行など当たり前のことなど一つもありません。普段の生活は尚更のこと、厳しい状況下であっても感謝を捧げるなら無限大の掛け算の祝福、救い、奇跡に繋がります。イエス様は二万名の者達を前に、たった五つのパンと二匹の魚をもって感謝を捧げた時、全員が満腹し、十二カゴのパンが残りました。死んで四日経つラザロの墓前で、イエス様が「わたしの願いを聞いてくださったことを感謝します。」と言われた時、彼はよみがえりました。同様に厳しい状況下で感謝をするなら掛け算の奇跡が起こるのです。アーメン！